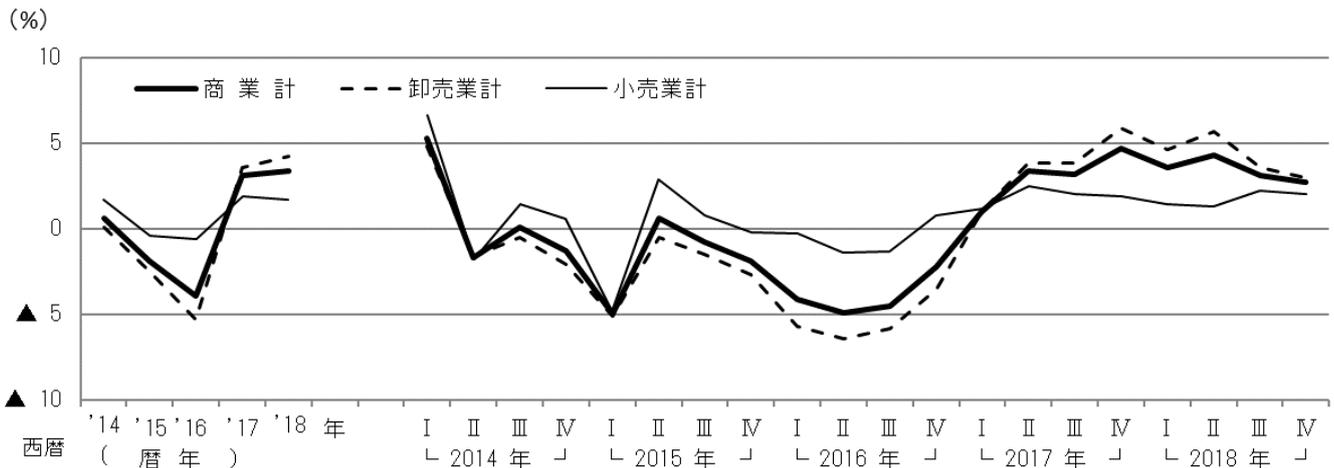


# 概 況

## I. 商業販売額の動向

2018年の商業販売額は、前年比3.4%と2年連続の増加となった(第1図)。卸売業販売額は、同4.2%と2年連続の増加、小売業販売額は、同1.7%と2年連続の増加となった。

第1図 商業販売額の推移(前年比・前年同期比)

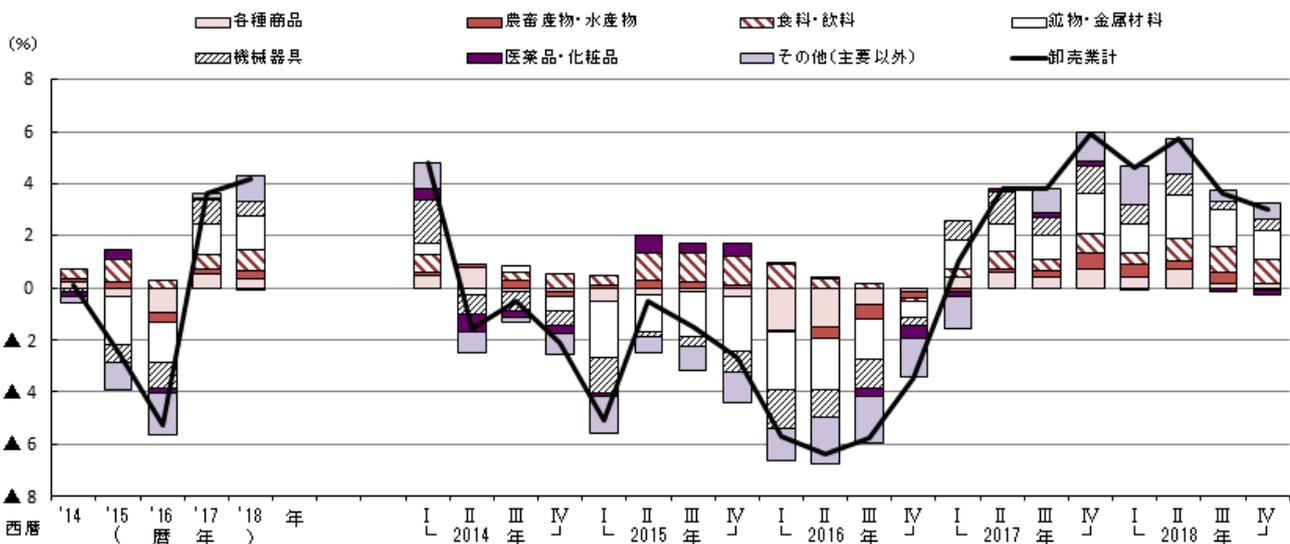


## II. 卸売業販売額の動向

2018年の卸売業販売額は、前年比4.2%と2年連続の増加となった(第2図)。

これは、鉱物・金属材料卸売業が原油、液化天然ガスの価格上昇による輸入増ならびに、非鉄金属、鉄鋼製品の輸出入増などにより増加、食料・飲料卸売業が、食料品の輸出入増や国内外食産業向けの増加などにより増加、機械器具卸売業が半導体等電子部品の輸出入増、通信機の輸出増及び家電製品の国内向け増ならびに、原動機の輸出入増、半導体製造装置の輸出増、工作機械の国内外向け増などにより増加となったことなどによる。

第2図 主要卸売業業種別寄与度の推移(前年比・前年同期比)



## 1. 主要業種における年間販売額の動向

- ① 各種商品卸売業（総合商社など）は、鋼材の輸出ならびに国内向け増、石油製品の国内向け増及び原油、液化天然ガスの輸入増などにより、前年比 3.0%と2年連続の増加となった。
- ② 農畜産物・水産物卸売業は、穀物類、肉類などの輸入増及び野菜類などの相場高により、前年比 4.0%と2年連続の増加となった。
- ③ 食料・飲料卸売業は、食料品の輸出入の増加や国内外食産業向けの増加などにより、前年比 5.3%と9年連続の増加となった。
- ④ 鉱物・金属材料卸売業は、原油、液化天然ガスの価格上昇による輸入増ならびに、非鉄金属、鉄鋼製品の輸出入増などにより、前年比 9.3%と2年連続の増加となった。
- ⑤ 機械器具卸売業は、電気機械器具が半導体等電子部品の輸出入増、通信機輸出増及び家電製品の国内向け増などにより増加、産業機械器具が原動機の輸出入増及び半導体製造装置の輸出増、工作機械の国内外向け増などにより増加、自動車自動車及び自動車部分品のE U、アジアとの輸出入増などにより増加したことにより、前年比 2.8%と2年連続の増加となった。

## 2. 大規模卸売店における年間販売額の動向

大規模卸売店は、前年比 3.6%と2年連続の増加となった。

これは、鋼材の輸出及び国内向けの増加、石油製品の国内向け増加、原油、液化天然ガス、液化石油ガス、ナフサの輸入が増加となったことなどによる。

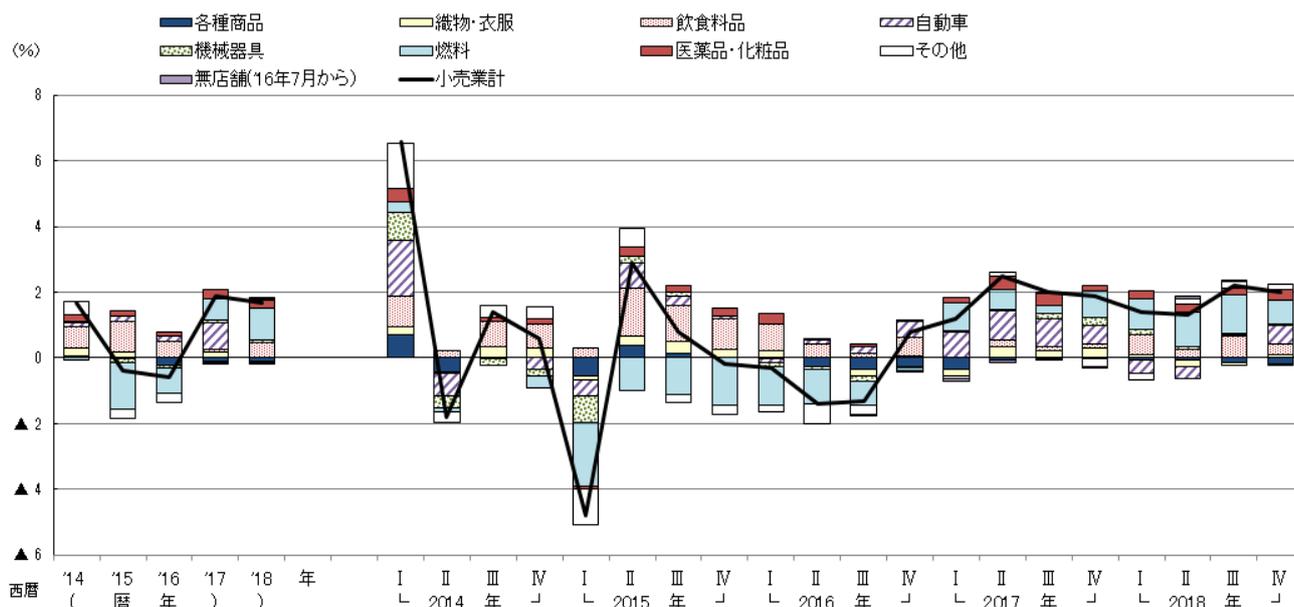
商品別にみると、その他の商品、その他の輸送用機械器具が減少となったものの、鉄鋼をはじめ、石油・石炭、化学製品、その他の機械器具、食料・飲料などが増加となった。

## Ⅲ. 小売業販売額の動向

2018年の小売業販売額は、前年比 1.7%と2年連続の増加となった（第3図）。

これは、燃料小売業が、ガソリンなどの石油製品価格が上昇したことなどにより増加、飲食料品小売業が、農産品の相場高に加え、総菜に動きがみられたことなどにより増加、医薬品・化粧品小売業が、化粧品が好調だったことなどにより増加、機械器具小売業が、生活家電が好調だったことなどにより増加だったことなどによる。

第3図 小売業業種別寄与度の推移（前年比・前年同期比）



注：2015年7月より無店舗小売業を特掲して表章している。

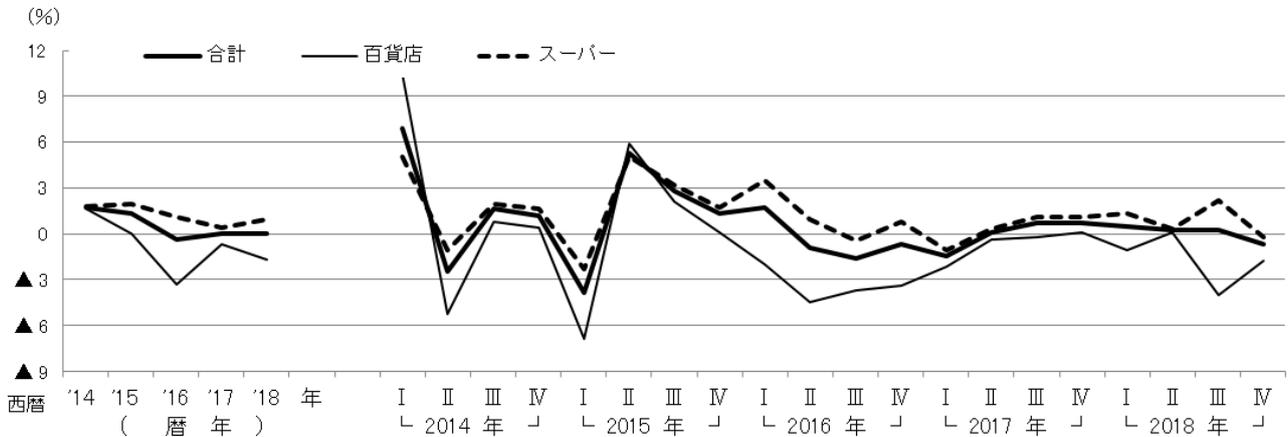
### 1. 業種別年間販売額の動向

- ① 各種商品小売業（百貨店など）は、豪雨や相次ぐ台風、暖冬など天候不順の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲1.3%と4年連続の減少となった。
- ② 織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響から季節商材が不調だったことなどにより、前年比▲0.2%と9年ぶりの減少となった。
- ③ 飲食料品小売業は、農産品の相場高に加え、総菜に動きがみられたほか、コンビニエンスストアの好調などにより、前年比1.4%と12年連続の増加となった。
- ④ 自動車小売業は、小型車などの不調により、前年比▲0.1%と5年ぶりの減少となった。
- ⑤ 機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などの生活家電が好調だったことなどにより、前年比1.9%と2年連続の増加となった。
- ⑥ 燃料小売業は、ガソリンなどの石油製品価格の上昇などにより、前年比11.9%と2年連続の増加となった。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアの堅調及び化粧品などが好調だったことなどにより、前年比3.6%と7年連続の増加となった。
- ⑧ その他小売業は、DIY用具・素材が堅調だったことなどにより、前年比0.5%の増加となった。
- ⑨ 無店舗小売業は、食料品や化粧品に動きがみられたことなどにより、前年比0.4%の増加となった。

## 2. 百貨店・スーパーにおける年間販売額の動向

百貨店・スーパーは、前年比0.0%の横ばいとなった(第4図)。  
 なお、既存店ベースでみると、同▲0.5%と2年ぶりの減少となった。

第4図 百貨店・スーパー販売額の推移(前年比・前年同期比)



### ① 百貨店

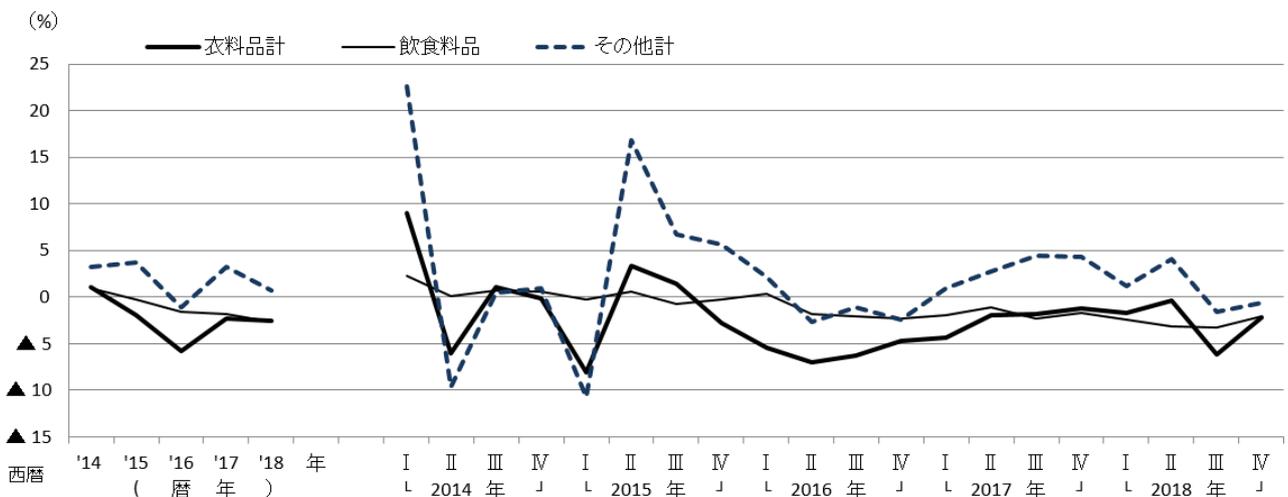
百貨店は、前年比▲1.7%と3年連続の減少となった(第5図)。

これは、化粧品や高額商品が好調だったものの、閉店の影響に加え、天候不順により主力の衣料品を中心に低調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、天候不順や閉店の影響などにより、身の回り品を除く全ての商品で減少となった。飲食料品は、地方物産展などの催事効果がみられたものの、閉店の影響により減少となった。その他は、化粧品が国内需要、訪日外国人旅行者(インバウンド)需要ともに好調だったことに加え、高級腕時計や宝飾品などの高額商品に動きがみられたことなどにより増加となった。

なお、既存店ベースでみると、同▲0.3%と2年ぶりの減少となった。

第5図 百貨店商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



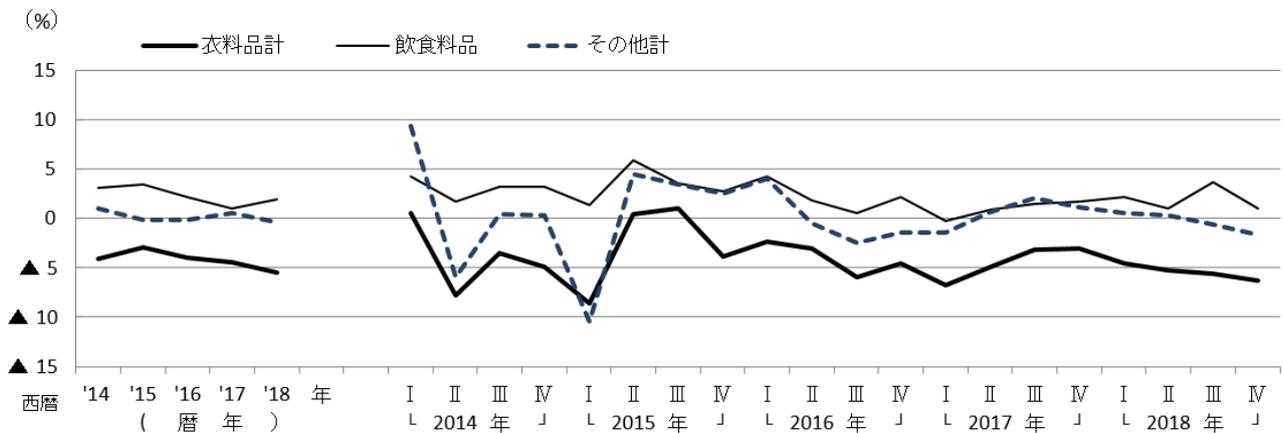
## ② スーパー

スーパーは、前年比0.9%と8年連続の増加となった(第6図)。

これは、天候不順の影響や専門店、通販との競合による減少などから、衣料品、家具、家庭用品などが低調だったものの、新店効果に加え、総菜、飲料を中心に、主力の飲食料品が堅調だったことなどによる。

商品別にみると、衣料品は、天候不順の影響や専門店、通販との競合による減少などから、婦人服など全ての商品で減少となった。飲食料品は、総菜、飲料などが堅調だったことに加え、夏以降に野菜の相場高などにより増加となった。その他は、化粧品などに動きがみられたものの、専門店、通販との競合による減少の中で天候不順の影響などもあり減少となった。なお、既存店ベースでみると、同▲0.5%と2年連続の減少となった。

第6図 スーパー商品別販売額の推移(前年比・前年同期比)



## 3. コンビニエンスストアにおける年間販売額の動向

コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、前年比2.0%と20年連続の増加となった(第7図)。

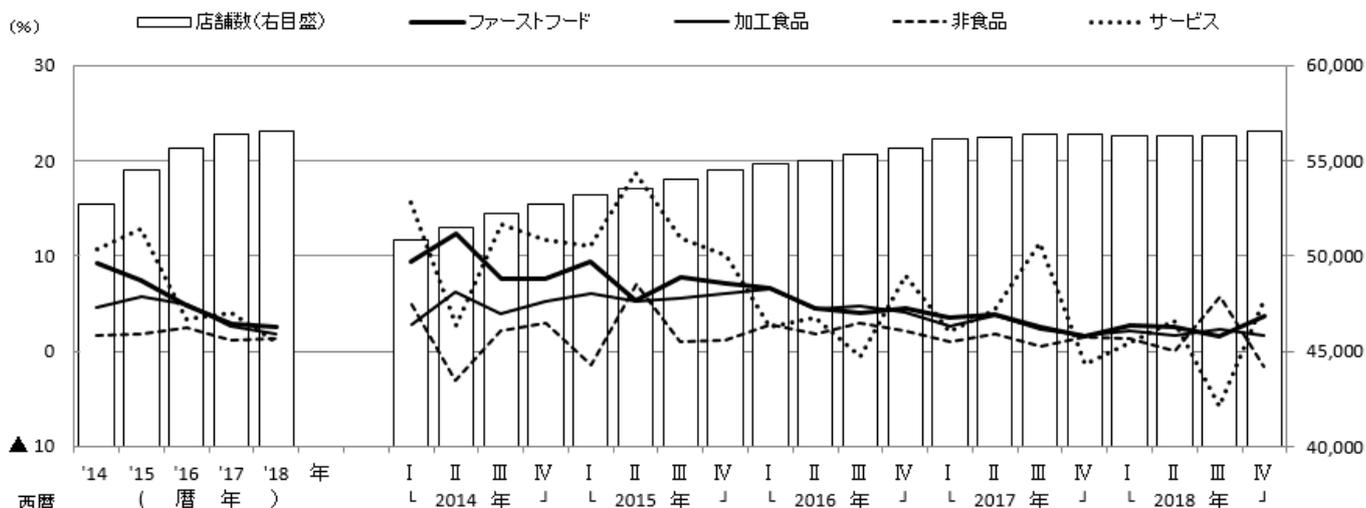
これは、ファーストフード及び日配食品などが好調だったことなどによる。

商品販売額は、同2.0%と20年連続の増加となった。

商品別にみると、ファーストフード及び日配食品は、総菜、調理麺、おにぎりなどが好調だったことにより、同2.6%と9年連続の増加となった。加工食品は、冷凍食品、ソフトドリンク、アイスクリームなどが好調だったことにより、同1.9%と9年連続の増加となった。非食品は、たばこ関連商品などが好調だったことにより、同1.4%と20年連続の増加となった。

サービス売上高は、各種チケットの取り扱い増やプリペイドカードなどが好調だったことにより、同0.9%と12年連続の増加となった。

第7図 コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高と店舗数の推移  
(前年比・前年同期比)



店舗数をみると、12月末で5万6574店、前年末に比べ200店の増加（前年末比0.4%増）となった。

#### 4. 家電大型専門店における年間販売額の動向

家電大型専門店は、前年比2.1%と2年連続の増加となった（第8図）。

商品別にみると、通信家電は、スマートフォンの需要好調により同7.5%、AV家電は、テレビが堅調だったことから同3.7%と、いずれも2年連続の増加となった。また、生活家電は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などが引き続き堅調だったことから同2.9%と3年連続の増加となった。

一方、カメラ類は、ミラーレス一眼カメラを除くデジタルカメラの低調により同▲5.0%、情報家電は、ゲーム機の低調により同▲1.2%と、いずれも2年ぶりの減少となった。

第8図 家電大型専門店商品別販売額寄与度の推移（前年比・前年同期比）

